

調査ご協力をお願い

私たちは日本学術会議第24期連携会員哲学委員会「いのちと心を考える」分科会関係者を含む研究グループ*です。本日までご参加下さった皆様のご意見を、今後の提言とりまとめや、将来的な大規模調査の参考にさせて頂きたいと思っております。お手数ですがご協力のほど、何卒お願いいたします。調査の集計結果は、後日、個人を特定されない形で学術会議のウェブサイトに掲載いたします。個人情報が入る可能性のある自由記述（問5、6）については、ご希望であれば非掲載も可能です。

* 科研基盤研究(B)「ゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して—科学技術イノベーションと人間の尊厳」(研究課題番号 219H01188) 研究代表者: 田坂さつき (本予備調査担当: 東京電機大学 柳原良江)

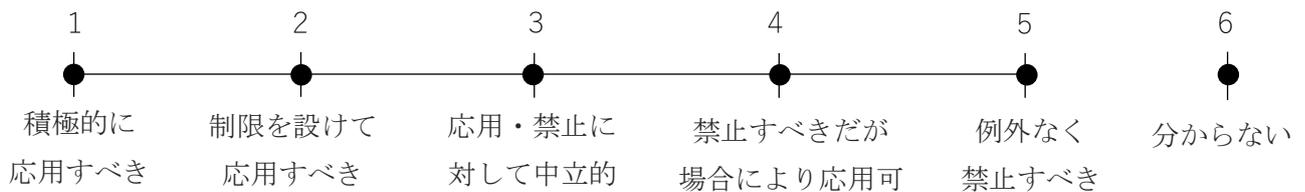
問1. 本日のフォーラムに参加して「ゲノム編集のヒト受精卵・生殖細胞への応用」に対するあなたの考え方が、参加前と比べて、どの程度変わったかお知らせ下さい。(該当するものに1つだけ○をつけて下さい)

1. 少し変わった 2. 変わった 3. 大いに変わった 4. 変わらない

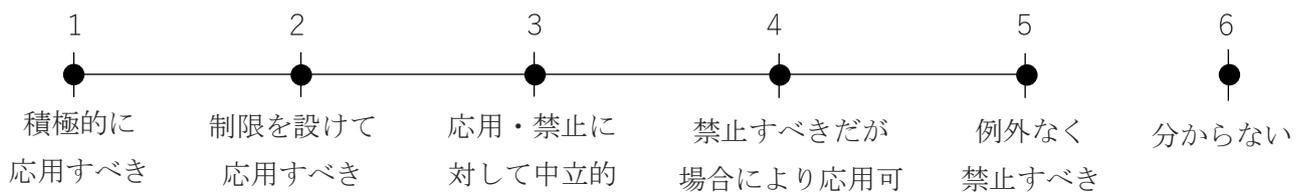
問6へお進み下さい。

ここからは問1で1、2、3を答えた方にお聞きします。

問2. 本フォーラムに参加前の、あなたの考えについて、もっとも近いものはどれですか？(数字に1つ○を)



問3. 本フォーラムに参加後の、あなたの考えについて、もっとも近いものはどれですか？(数字に1つ○を)



問4. あなたの考えに影響をもたらした講演や討論はどれですか。数字に○を付けて下さい。(いくつでも)

- 1 阿久津英憲 「ゲノム編集技術の現状と課題」
- 2 加藤和人 「WHO および国内外における取組みの現状」
- 3 高山佳奈子 「日本の立法的対応の前提と方法論」
- 4 松原洋一 「難病研究におけるゲノム編集：医療現場からの課題と期待」
- 5 香川知晶 「科学的生命観と人間の〈いのち〉」
- 6 石井哲也 「ゲノム編集された子とその親」
- 7 松原洋子 「ヒトの遺伝子改変是非論の争点」
- 8 総合討論 コーディネーター 石川冬木他

問5. 上記の問4で選んだ報告や討論により、具体的にあなたの考えがどう変わったかをお聞かせ下さい。

例：講演1により、〇〇の際に××の問題があることを知り、応用に慎重になるべきと思った。

■ 記述内容をウェブサイトに掲載しても宜しいでしょうか？ 1. 掲載可 2. 非掲載 (○を1つ)

→回答後は問7にお進み下さい。

問6. 問1で「4. 変わらない」と答えた方にお聞きします。

考えが変わらなかった理由をお聞かせ下さい。

■ 記述内容をウェブサイトに掲載しても宜しいでしょうか？ 1. 掲載可 2. 非掲載 (○を1つ)

問7. 全ての方にお聞きします。あなた自身について、あてはまるものに○を付けて下さい。

年齢： 1. ~10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代~

性別： 1. 男性 2. 女性 3. その他 ()

職業： 1. 大学生 2. 大学院生 3. 研究者(含大学教員) 4. 大学以外の教員 5. 公務員

6. 会社員 7. 非正規労働者 8. 自営業 9. 家事従事者(含主婦) 10. 年金生活者

11. 無職 12. その他 ()

最終学歴： 1. 中学 2. 高校 3. 専門学校 4. 高専 5. 短大 6. 四年制大学 7. 大学院

アンケートは以上です。ご協力まことにありがとうございました。

本調査に関する問い合わせ先：

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 立正大学文学部哲学科 教授田坂さつき 03-3492-8791